

東新堂原遺跡
野中B遺跡
野中C遺跡
野中A遺跡

—水利施設等保全高度化事業特別型(畑地帯担い手育成型・見岳地区)に伴う発掘調査—

発刊にあたって

本書は、長崎県南島原市西有家町見岳に所在する東新堂原遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中A遺跡の発掘調査報告書です。今回の発掘調査は、長崎県が事業主体となって実施している見岳地区のは場整備事業に伴って実施したものです。発掘調査では、縄文時代から中世にかけての多くの遺物が出土し、地中に眠っていた郷土の歴史の一端をうかがい知ることができました。私たちは、発掘調査によって得られたこれらの埋蔵文化財とその情報を貴重な歴史的財産として、責任をもって後世に伝えていく必要があります。本書が今後学術研究や教育などにおいて広く活用されることを願います。

末筆となりますが、発掘調査を実施するにあたりご協力とご理解を賜りました地権者と耕作者の皆様、地元にお住まいの皆様、工事関係の方々、島原振興局をはじめ開発事業部局の皆様、発掘調査と整理調査に従事いただきました作業員の方々、そのほか関係各位に深甚なる謝意を表し、発刊のあいさつといたします。

令和5年3月31日

南島原市教育委員会

教育長 松本 弘明

例　　言

- 1 本書は、東新堂原遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中A遺跡（長崎県南島原市西有家町見岳所在）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、長崎県島原振興局が事業主体である水利施設等保全高度化事業特別型（畠地帯扱い手育成型・見岳地区）に伴って実施した。
- 3 現地調査及び整理調査は、南島原市教育委員会が主体となって実施した。調査の体制・担当は、以下のとおりである。

調査主体

南島原市教育委員会	教　育　長	永田　良二（～令和3年8月）
	同　上	松本　弘明（令和3年8月～）
	教育次長	栗田　一政（～令和4年3月）
	同　上	五島　裕一（令和4年4月～）
	文化財課長	岡野　博明（～令和4年3月）
	同　上	中村　隆敏（令和4年4月～）
	文化財課文化財班長	梶原　知治

調査担当（現地調査）

東新堂原遺跡C地区、野中B遺跡、野中C遺跡、野中A遺跡

南島原市教育委員会 文化財課文化財班　主　査（学芸員） 小川　慶晴

東新堂原遺跡A区・B区

南島原市教育委員会 文化財課文化財班　主　事（学芸員） 竹村　南洋

調査担当（整理調査）

南島原市教育委員会 文化財課文化財班　副参事（学芸員） 本多　和典

- 4 現地調査における遺構配置図と土層実測図の作成は、各遺跡、現地調査担当が行い、一部を（株）埋蔵文化財サポートシステム長崎支店に委託した。写真撮影は、現地調査担当が行った。
- 5 本書掲載の遺物実測図の作成と遺物写真の撮影は、本多が行った。また、整理調査及び本書作成にあたって、細波泉、下田金衛、飛永弘恵、横田香織の協力を得た。
- 6 本書に関する遺物、図面、写真等は、南島原市深江理藏文化財整理室に保管している。
- 7 本書の執筆・編集は、本多による。

本文目次

第Ⅰ章 はじめに	1
第Ⅱ章 試掘調査・確認調査	2
第Ⅲ章 東新堂原遺跡の本調査	6
第Ⅳ章 野中B遺跡の本調査	10
第Ⅴ章 野中C遺跡の本調査	17
第Ⅵ章 野中A遺跡の本調査	21

挿図目次

第1図 見岳地区位地図 (S=1/200,000)	1
第2図 見岳地区遺跡分布図 (S=1/7,000)	3
第3図 見岳地区試掘・確認調査調査坑配置図（北東部）(S=1/4,000)	4
第4図 見岳地区試掘・確認調査調査坑配置図（南西部）(S=1/4,000)	5
第5図 東新堂原遺跡調査区配置図 (S=1/1,500)	7
第6図 東新堂原遺跡 A 区平面実測図・土層実測図 (S=1/60)	8
第7図 東新堂原遺跡 B 区平面実測図・土層実測図 (S=1/60)	8
第8図 東新堂原遺跡 C 区土層実測図 (S=1/60)	9
第9図 東新堂原遺跡 C 区VII層上面平面実測図 (S=1/60)	9
第10図 野中B遺跡調査区配置図 (S=1/1,500)	11
第11図 野中B遺跡東側調査区東壁土層実測図 (S=1/100)	12
第12図 野中B遺跡東側調査区IV層上面平面実測図 (S=1/200)	13
第13図 野中B遺跡東側調査区V層上面平面実測図 (S=1/200)	13
第14図 野中B遺跡西側調査区北西壁土層実測図 (S=1/100)	14
第15図 野中B遺跡西側調査区IV層上面平面実測図 (S=1/200)	15
第16図 野中B遺跡東側調査区出土遺物実測図 (S=1/3)	16
第17図 野中B遺跡西側調査区出土遺物実測図 (S=1/3)	16
第18図 野中C遺跡調査区配置図 (S=1/1,500)	18
第19図 野中C遺跡西壁土層実測図 (S=1/40)	19
第20図 野中C遺跡IV層上面平面実測図 (S=1/100)	20
第21図 野中C遺跡VI b層上面平面実測図 (S=1/100)	20
第22図 野中A遺跡東壁土層実測図 (S=1/60)	21
第23図 野中A遺跡調査区配置図 (S=1/1,500)	22
第24図 野中A遺跡VII層上面平面実測図 (S=1/40)	23

表 目 次

第1表 見岳地区試掘・確認調査履歴	2
第2表 野中B遺跡東側調査区出土遺物観察表	16
第3表 野中B遺跡西側調査区出土遺物観察表	16

図 版 目 次

図版1 東新堂原遺跡A区完掘状況（東から） 東新堂原遺跡A区北壁	27
東新堂原遺跡A区作業状況	
図版2 東新堂原遺跡B区完掘状況（東から） 東新堂原遺跡B区南壁	28
東新堂原遺跡B区作業状況	
図版3 東新堂原遺跡C区完掘状況（北から） 東新堂原遺跡C区北壁	29
図版4 野中B遺跡東側調査区東壁 野中B遺跡東側調査区北側IV層上面遺構検出状況（北から）	30
野中B遺跡東側調査区南側IV層上面遺構検出状況（北から）	
図版5 野中B遺跡東側調査区遺物検出状況 野中B遺跡東側調査区遺物出土状況	31
図版6 野中B遺跡西側調査区西壁 野中B遺跡西側調査区IV層上面遺構検出状況（北から）	32
野中B遺跡西側調査区遺物出土状況	
図版7 野中B遺跡出土遺物	33
図版8 野中C遺跡西壁 野中C遺跡VIa層上面遺構検出状況（北から）	34
野中C遺跡作業状況	
図版9 野中A遺跡調査区設定（北から） 野中A遺跡セレクト層検出状況（北から）	35
野中A遺跡完掘状況（北から）	
図版10 野中A遺跡西壁① 野中A遺跡西壁②	36
野中A遺跡作業状況	

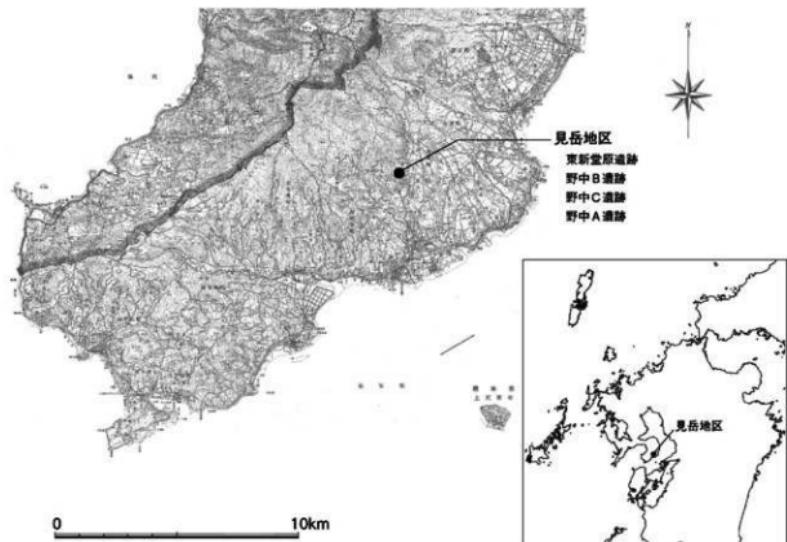
第Ⅰ章 はじめに

東新堂原遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中A遺跡は、長崎県南島原市西有家町見岳に所在する。これら4遺跡の所在する見岳地区は、島原半島東部の標高100～130mの緩斜面上に立地し、島原半島の中央にそびえる標高1,483mの平成新山を主峰とする雲仙山系を望むが、その中でも標高881mの高岩山がもっとも間近である。有明海を隔てては、宇土半島や湯島（談合島）、天草諸島と対峙する。有家川と見岳川とに挟まれた農業地帯であり、葉タバコや野菜類の栽培が盛んである。今回報告する各遺跡の調査原因是、長崎県島原振興局を事業主体とするほ場整備事業である。

見岳地区においては、ほ場整備事業に伴い過去にも埋蔵文化財の発掘調査が行われている。東石原遺跡では、平成30年度の調査で縄文時代晚期の土器の出土がある。石原遺跡では、平成30年度の調査において縄文時代晚期、弥生時代後期～古墳時代初頭、中世のまとまった遺物の出土がみられる。また掘立柱建物跡の検出もある。平成31年度の野中A遺跡の調査では、円筒形条痕文土器を主体に縄文時代早期の遺物がまとまって出土している。

【参考文献】

- 小川慶晴『東石原遺跡』南島原市文化財調査報告書第17集 南島原市教育委員会
小川慶晴『野中A遺跡』南島原市文化財調査報告書第25集 南島原市教育委員会
本多和典・小川慶晴『石原遺跡』南島原市文化財調査報告書第26集 南島原市教育委員会



第1図 見岳地区位置図 (S=1/200,000)

第Ⅱ章 試掘調査・確認調査

長崎県南島原市西有家町見岳地区では長崎県島原振興局および南島原市農村整備課によりは場整備事業が計画された。このことを受け、南島原市教育委員会は、事業範囲が広域であること、また事業区域に周知の遺跡として養台寺跡、野中遺跡の2遺跡を含んでいることから、試掘調査及び範囲確認調査が必要と判断した。

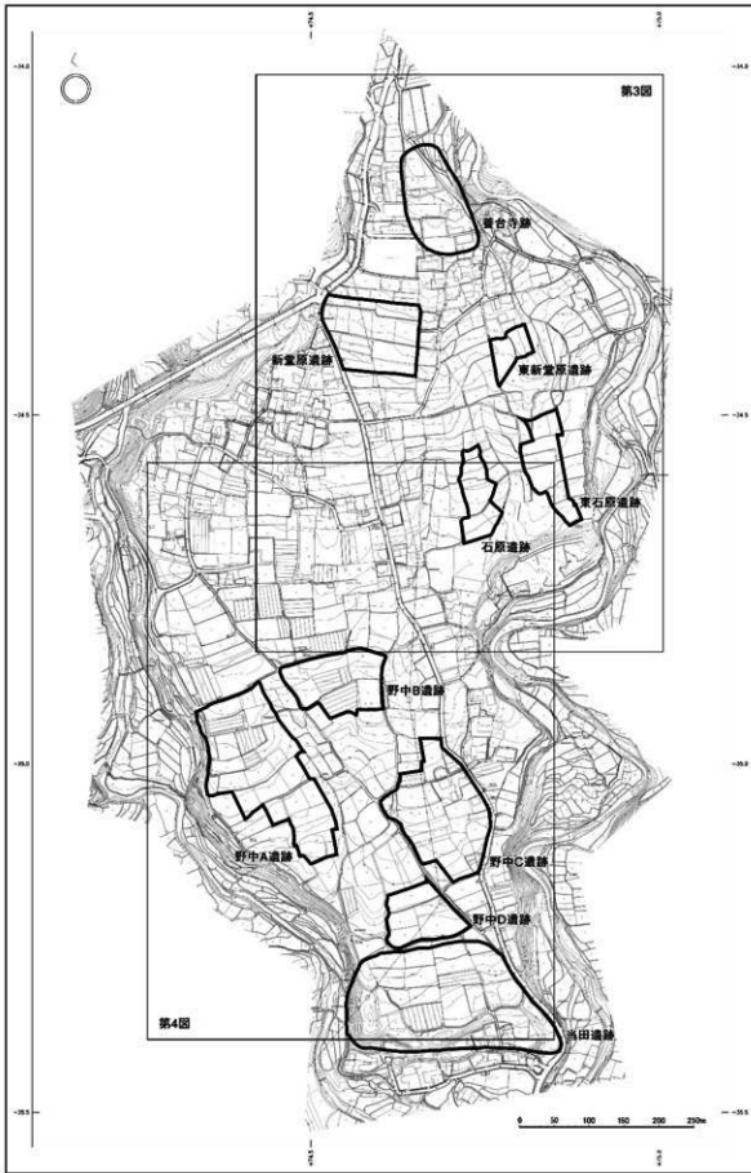
試掘調査および範囲確認調査は、平成26年度から平成28年度にかけて実施した。調査方法としては、平面2m四方の調査坑を人力にて掘削するもので、層位ごとに遺構・遺物の有無を確認していく。必要に応じて土層断面図の作成や各作業段階で写真撮影を行っている。調査坑の総数は、96箇所である。経過としては、平成26年度の試掘調査において新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡の4遺跡が新規の遺跡として発見・登録されることになった。また、平成27年度・平成28年度には新規発見遺跡を含めた各遺跡の範囲確定のために範囲確認調査を実施した。その結果、平成27年度には石原遺跡について一部範囲を縮小、野中遺跡について地形的な条件も考慮してA～Dの4つの区域に分割した。平成28年度には東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡について範囲縮小の手続きをとっている。

このような経験をふまえ、見岳地区の事業計画地内における遺跡は、養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡、野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡、野中D遺跡の9遺跡となり、平成28年度をもってその範囲を確定させることとなった。

事業採択が行われたのち、島原振興局農村整備課と南島原市教育委員会文化財課とで各遺跡の現地保存について協議を重ね、やむなく遺跡の現地保存がかなわない地点については、内容確認調査を必要に応じて実施しながら本調査範囲の絞り込みを行い、本調査を実施していった。最終的に令和3年度をもって事業区域内における各遺跡の本調査をすべて完了している。

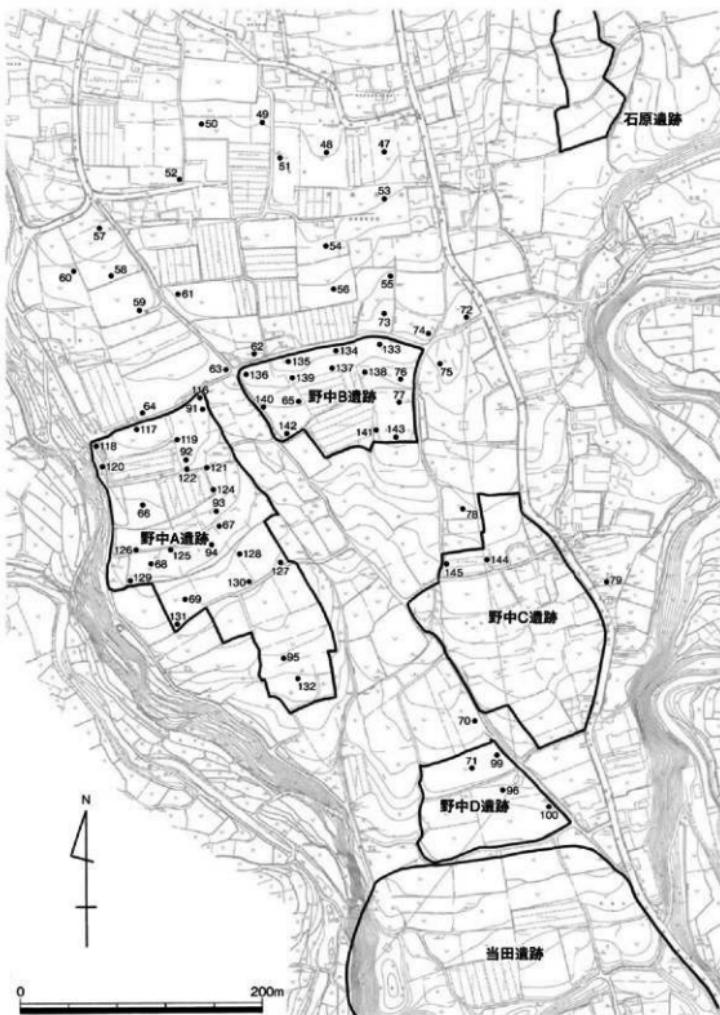
第1表 見岳地区試掘・確認調査履歴

調査年度	調査坑番号	調査面積	調査内容
平成26年度	TP.1～TP.40	160m ² (4m ² の調査坑40箇所)	試掘調査、範囲確認調査（養台寺跡）
平成27年度	TP.41～TP.79	156m ² (4m ² の調査坑39箇所)	試掘調査、範囲確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、野中遺跡）
平成28年度	TP.80～TP.96	68m ² (4m ² の調査坑17箇所)	範囲確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、石原遺跡、東石原遺跡、野中A遺跡、野中D遺跡）
平成30年度	TP.97～TP.100	16m ² (4m ² の調査坑4箇所)	内容確認調査（東石原遺跡、野中D遺跡）
平成31年度	TP.101～TP.109, TP.111, TP.115～TP.146	168m ² (4m ² の調査坑42箇所)	内容確認調査（養台寺跡、新堂原遺跡、東新堂原遺跡、野中A遺跡、野中B遺跡、野中C遺跡）



第2図 見岳地区遺跡分布図 ($S=1/7,000$)





第4図 見岳地区試掘・確認調査調査坑配置図（南西部）（S=1/4,000）

第Ⅲ章 東新堂原遺跡の本調査

調査の概要

令和2年10月19日から令和2年10月23日の期間において、北側のA区2m²、南側のB区2m²の本調査を実施している。いずれも平面形は2m×1mで、1m強の深さで掘削を行っている。灌漑施設工事に伴う調査である。

また、令和2年12月18日から令和3年1月29日の期間において、南北6m×東西4.6mの調査区をC区として設定し、本調査を実施している。

いずれの調査区も掘削は人力によって行い、土層の堆積状況や完掘時の平面を実測図によって記録し、必要に応じて写真撮影も行った。

基本土層

調査によって得られた基本土層は、以下のとおりである。

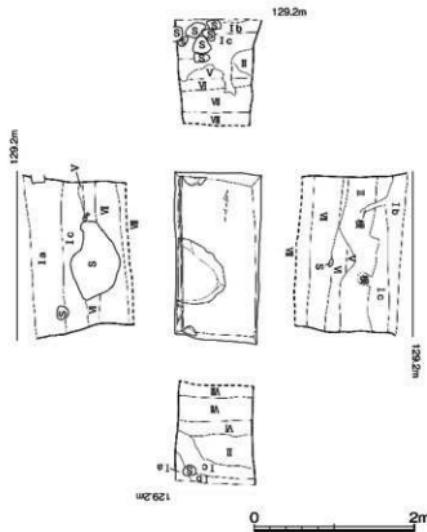
- I a層 混雜灰白色砂質土。造成土（セレクト）。は場整備に伴う新設道路の基盤土。
- I b層 黒褐色土。表土。
- I c層 暗褐色土。造成土。
- II 層 暗褐色土。造成土。
- V 層 黒褐色土。縄文時代晚期遺物包含層。シルト質。（見岳地区基本土層IV層）
- VI 層 黒褐色土。シルト質。暗褐色土が斑が混じる。（見岳地区基本土層V層）
- VII 層 黒色土。シルト質。（見岳地区基本土層VI層）
- VIII 層 黒褐色土。粘性が強い。（見岳地区基本土層VII層）

遺構・遺物

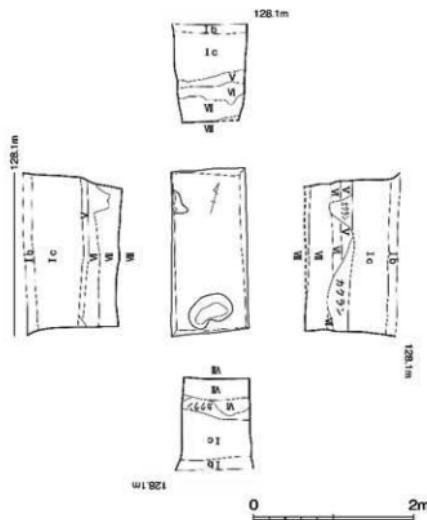
各調査区において、遺構の検出は見られなかった。A区ではVI層付近まで深度のある塩ビ管が設置されるなど、いずれの調査区においても後世の搅乱により縄文時代晚期より新しい部分の堆積は失われている状況が観察された。遺物としては、縄文時代後・晚期と思われる土器片数点の検出があった。



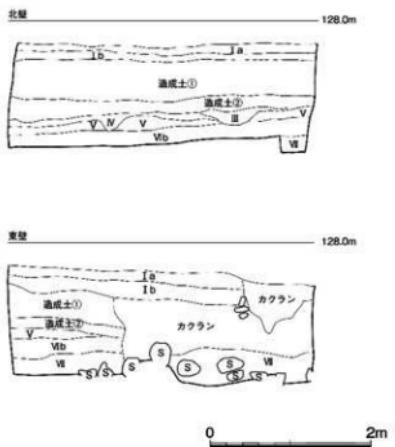
第5図 東新堂原遺跡調査区配置図 (S=1/1,000)



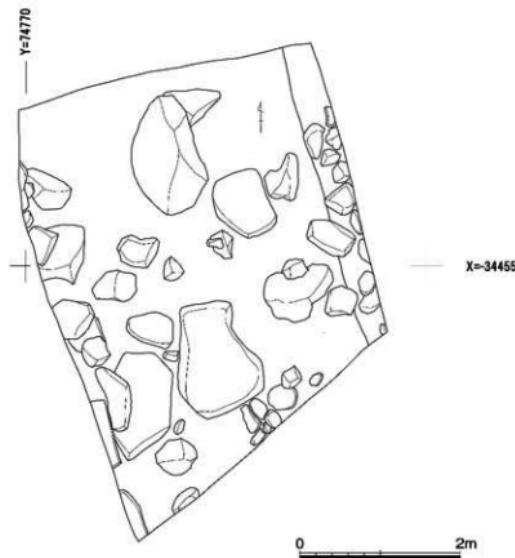
第6図 東新堂原遺跡A区平面実測図・土層実測図 (S=1/60)



第7図 東新堂原遺跡B区平面実測図・土層実測図 (S=1/60)



第8図 東新堂原遺跡C区土層実測図 (S=1/60)



第9図 東新堂原遺跡C区VI層上面平面実測図 (S=1/60)

第IV章 野中B遺跡の本調査

調査の概要

令和3年6月1日から令和3年8月31日の期間において、185m²の本調査を実施した。調査区は東西の2箇所あり、東側調査区が119m²、西側調査区が66m²である。どちらの調査区も範囲となっているのは水路計画地であり、近現代の耕作土を重機によって掘削したのち、人力による掘削調査を行っている。また、調査中は適宜写真や図面等の記録作業を行い、遺構の検出作業はIV層上面とV層上面で行っている。

基本土層

今回の調査によって得られた土層は以下の通り整理できる。各層は見岳地区の基本土層に対応しているが、野中B遺跡ではII層・V層・VIb層・VII層は無遺物層である。

I a層 褐色土。耕耘を受けた耕作土。

I b層 褐色土。耕耘を受けておらずしまりが強い耕作土。

II 層 黒褐色土。

III 層 褐色土。弥生時代中・後期の遺物包含層。

IV 層 暗褐色土。縄文時代後・晩期の遺物包含層。

V 層 褐色土。

VI b層 黒褐色土。

VII 層 灰黄色土。非常にしまりが強い。橙色粒子を1%程度含む。

遺構

東側調査区では、北部から不整形の焼土土坑を1基検出した。検出面は削平の影響で不明だが、覆土内からは弥生時代後期の土器片が出土している。焼土範囲は5mを超える。根を張るように不規則な形をしていることから植物根跡の可能性もある。また、IV層上面、V層上面の各面においてビットを検出した。

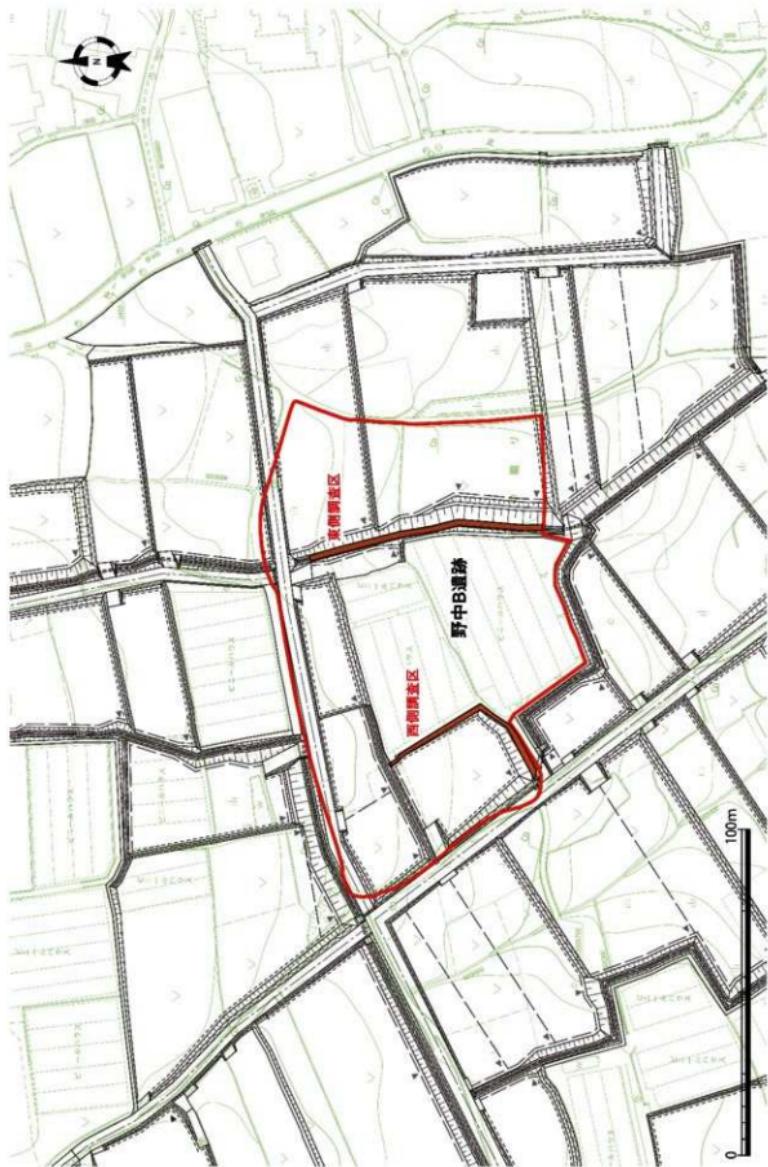
西側調査区では、東側調査区と異なり、V層の堆積が確認されなかった。遺構はIV層上面とVI層上面においてビットを複数検出した。

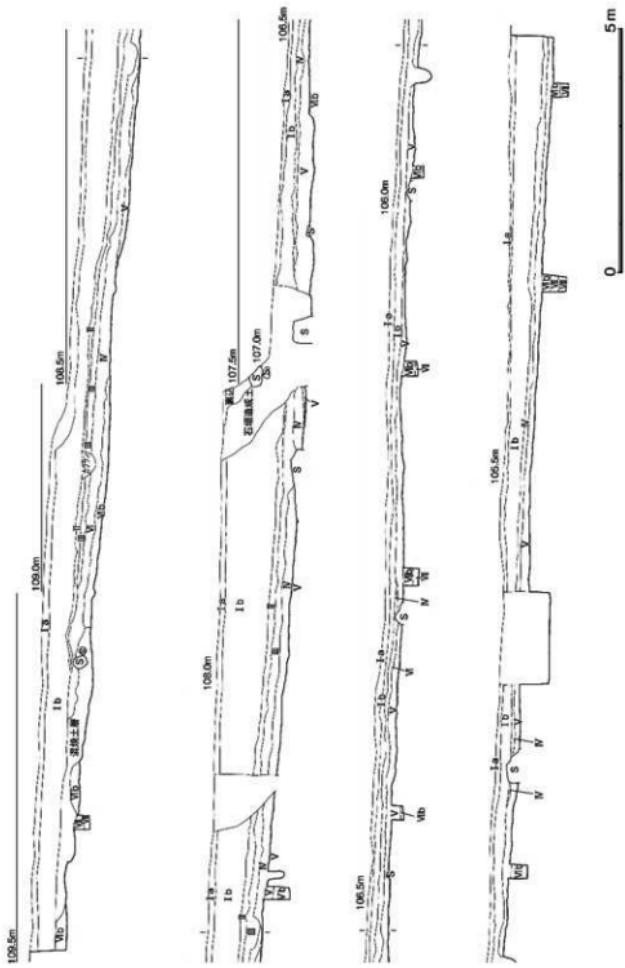
出土遺物

1～9は東側調査区から出土した遺物である。1は縄文時代後期の鉢である。内外面ともに丁寧な研磨調整が施され、波状をなす口縁部の文様帶には2条の沈線を引く。2～5は弥生時代の資料である。2は壺の口縁部で、断面三角に肥厚させる。3・4は同一個体の可能性が高い胴部片である。いずれも断面四角の突帯に刻目を施す。5は広口壺の口縁部である。6は台付壺の脚部であろう。外面には刷毛目調整がみられる。7～9は古墳時代の壺の資料である。7は肩部から口縁部への移行部である。8はしっかりと張った肩の部分である。9は大きく外反する口縁部である。

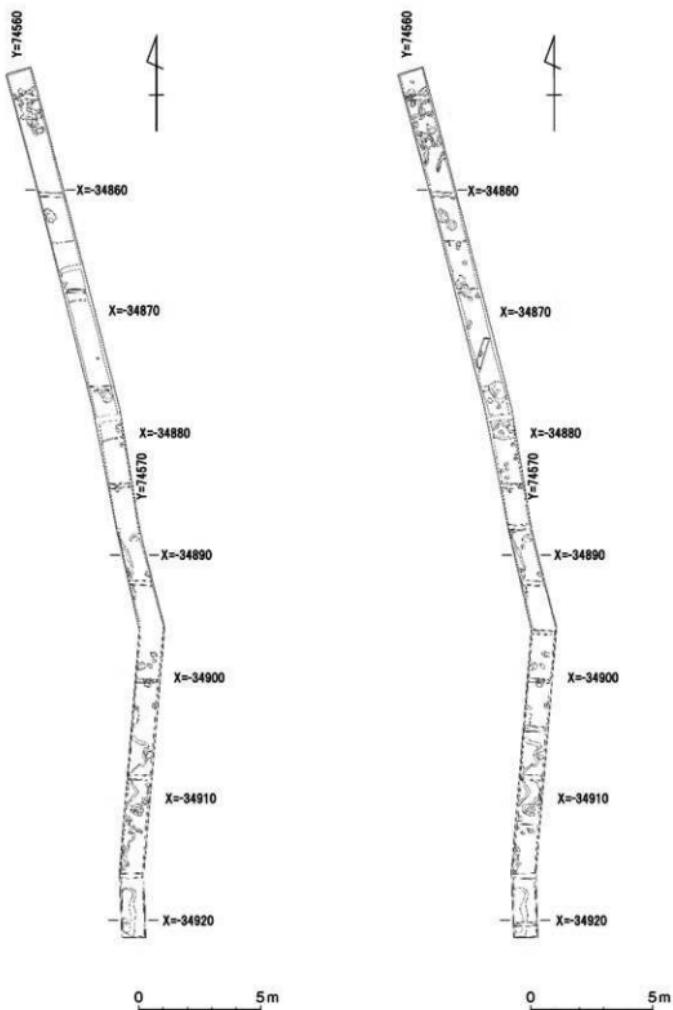
10～15は西側調査区から出土した資料である。10は縄文時代晩期の深鉢である。外面には貝殻条痕調整が、内面には研磨調整が施される。11・12は古墳時代の資料である。11は壺の外反する口縁部である。12は復元口径13.2cm、器高5.5cmを測る鉢である。13～15は中世の土師質土器である。いずれも回転輹轆成形である。

第10図 野中B遺跡調査区配図 (S=1/1,500)





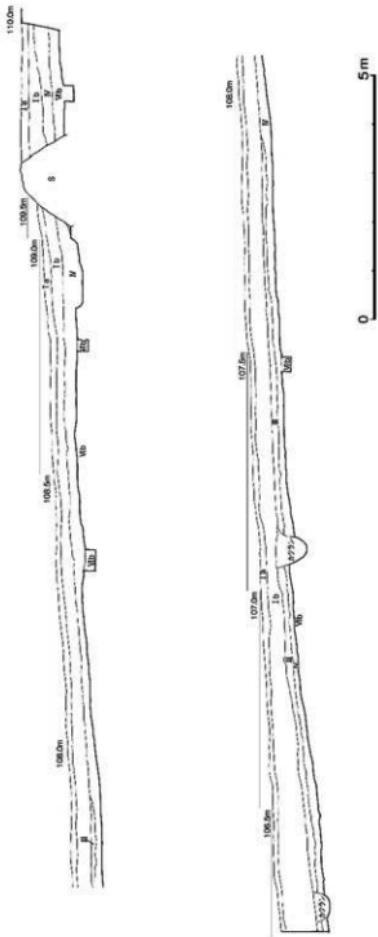
第11図 野中B遺跡東側調査区東壁土層実測図 (S=1/100)

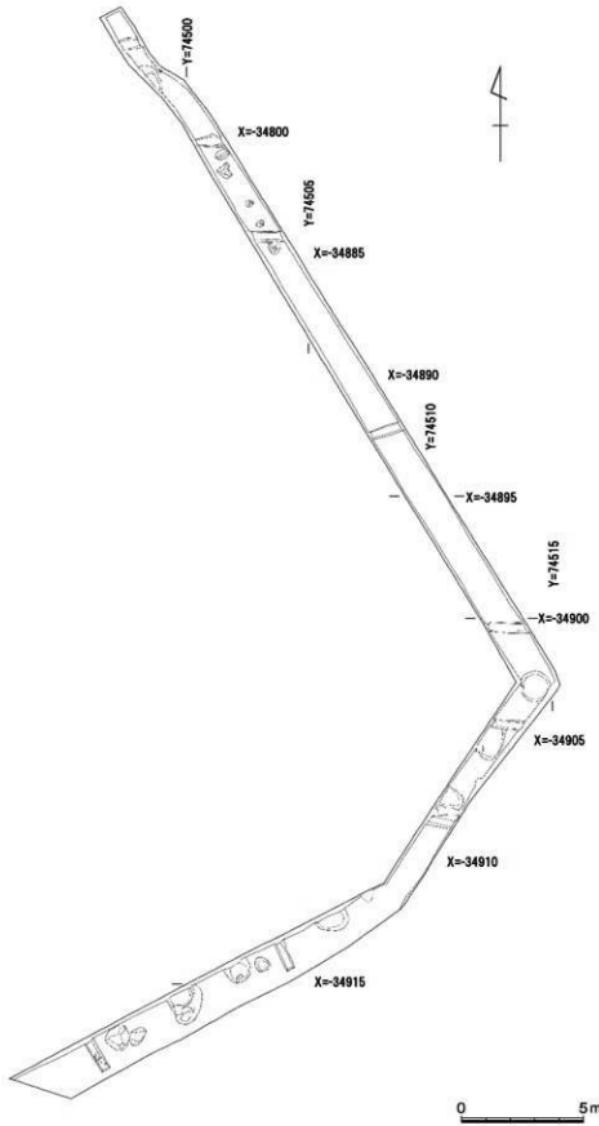


第12図 野中B遺跡東側調査区
IV層上面平面実測図 (S=1/200)

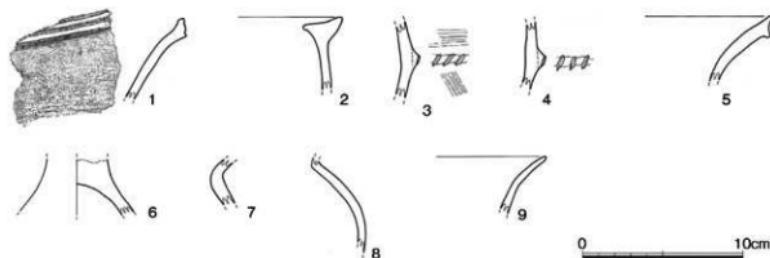
第13図 野中B遺跡東側調査区
V層上面平面実測図 (S=1/200)

第14図 野中B道路西側斜坡区北壁土層実測図 ($S=1/100$)

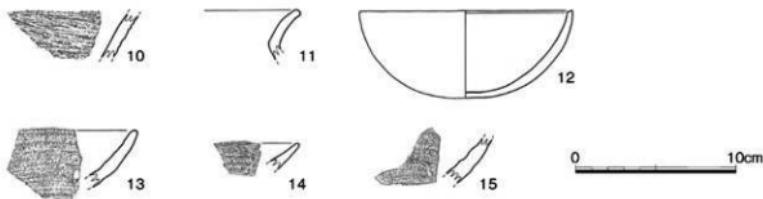




第15図 野中B遺跡西側調査区IV層上面平面実測図 (S=1/200)



第16図 野中B遺跡東側調査区出土遺物実測図 (S=1/3)



第17図 野中B遺跡西側調査区出土遺物実測図 (S=1/3)

第2表 野中B遺跡東側調査区出土遺物観察表

図	番号	調査区	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
					外画	内面	外画	内面		
16	1	東側調査区	K60	IV層	沈底・研磨	研磨	青灰色	黄灰色	角閃石長石石英	黒色磨研
	2	東側調査区	G59	II層上面	ナデ	ナデ	浅青色	黄褐色	長石石英	
	3	東側調査区	H59	Ⅲ層	刻目・研毛目	ナデ	暗灰黄色	暗灰黄色	長石石英	
	4	東側調査区	G59	Ⅲ層	刻目・ナデ	ナデ	灰色	浅黄色	角閃石長石石英	
	5	東側調査区	H59	Ⅲ層	ナデ	ナデ	暗灰黄色	暗灰黄色	長石石英	
	6	東側調査区	159	Ⅲ層	刷毛目・ナデ	ナデ	(に)ぬ・黄褐色	黄灰色	長石石英	
	7	東側調査区	G59	Ⅲ層	ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石長石石英	
	8	東側調査区	G59	Ⅲ層	刷毛目・ナデ	刷毛目・ナデ	(に)ぬ・褐色	(に)ぬ・黃褐色	角閃石長石石英雲母	
	9	東側調査区	1159	Ⅲ層	不明	不明	(に)ぬ・黄褐色	黄褐色	角閃石長石石英	

第3表 野中B遺跡西側調査区出土遺物観察表

図	番号	調査区	グリッド	層位	文様・調整		色調		胎土	備考
					外画	内面	外画	内面		
17	10	西側調査区	Q46	IV層	凹凸条痕	研磨	(に)ぬ・黄褐色	(に)ぬ・黄褐色	角閃石長石石英	
	11	西側調査区		Ib層	ナデ	ナデ	橙色	橙色	角閃石長石石英	
	12	西側調査区	N44	IV層上面	ナデ	研毛目・ナデ	黄褐色	黄褐色	角閃石長石石英	
	13	西側調査区		回転ナデ	回転ナデ	明小褐色	(に)ぬ・褐色	角閃石長石石英		
	14	西側調査区		Ib層	回転ナデ	回転ナデ	(に)ぬ・黄褐色	(に)ぬ・黄褐色	角閃石長石石英	
	15	西側調査区		Ib層	回転ナデ	回転ナデ	明小褐色	明小褐色	角閃石長石石英	

第V章 野中C遺跡の本調査

調査の概要

令和3年7月6日から令和3年7月14日の期間において、石積みの計画となっている16mについて本調査を実施した。遺跡の中では北部になる。近現代の耕作土を重機によって掘削し、IV層までを層位ごとに入力で掘削した。調査中は適宜写真や図面等の記録作業を行い、遺構の検出作業はIV層上面とVIa層上面で行った。

基本土層

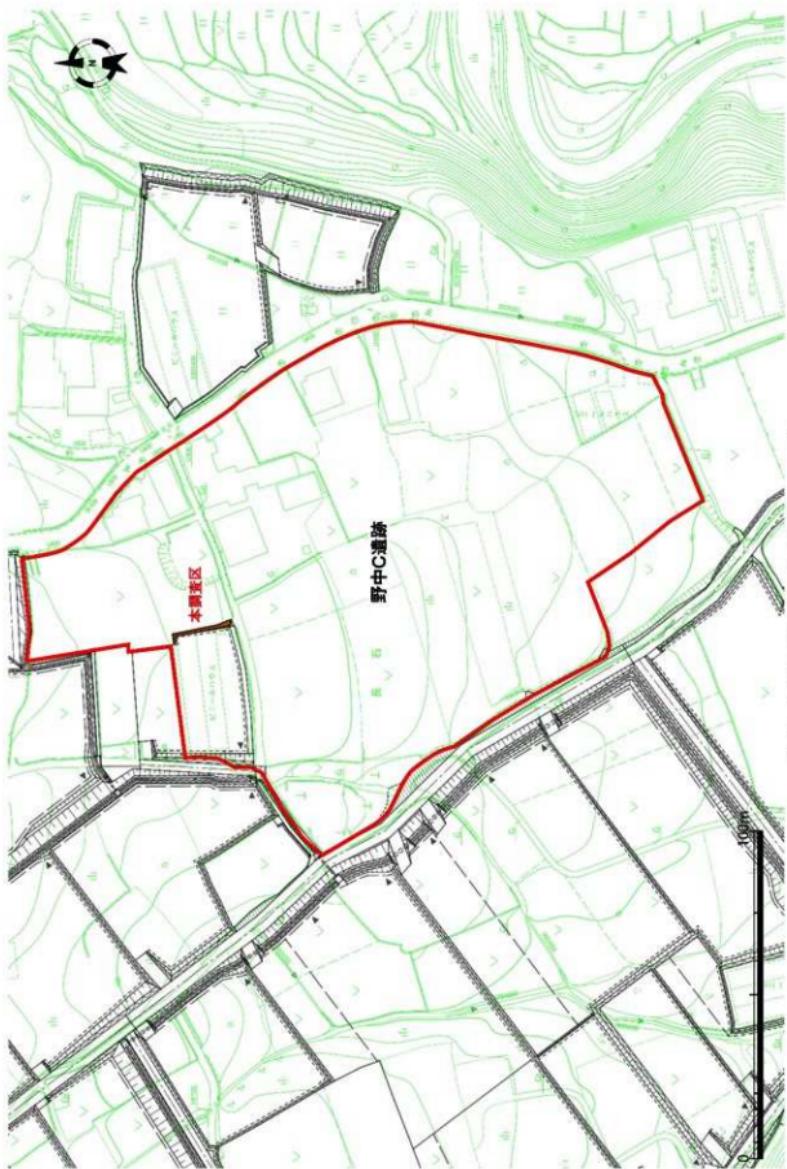
今回の調査によって得られた土層は以下の通りである。各層は見岳地区の基本土層に対応するが、野中C遺跡ではII層・III層・VIa層・VIb層は無遺物層である。

- I a層 暗褐色土。耕耘を受けた耕作土。
- I b層 暗褐色土。耕耘を受けておらずしまりが強い耕作土。
- II 層 黒褐色土。
- III 層 暗褐色土。
- IV 層 暗褐色土。縄文時代後・晚期、弥生時代早期の遺物包含層。
- VI a層 黒褐色土。
- VI b層 黒褐色土。

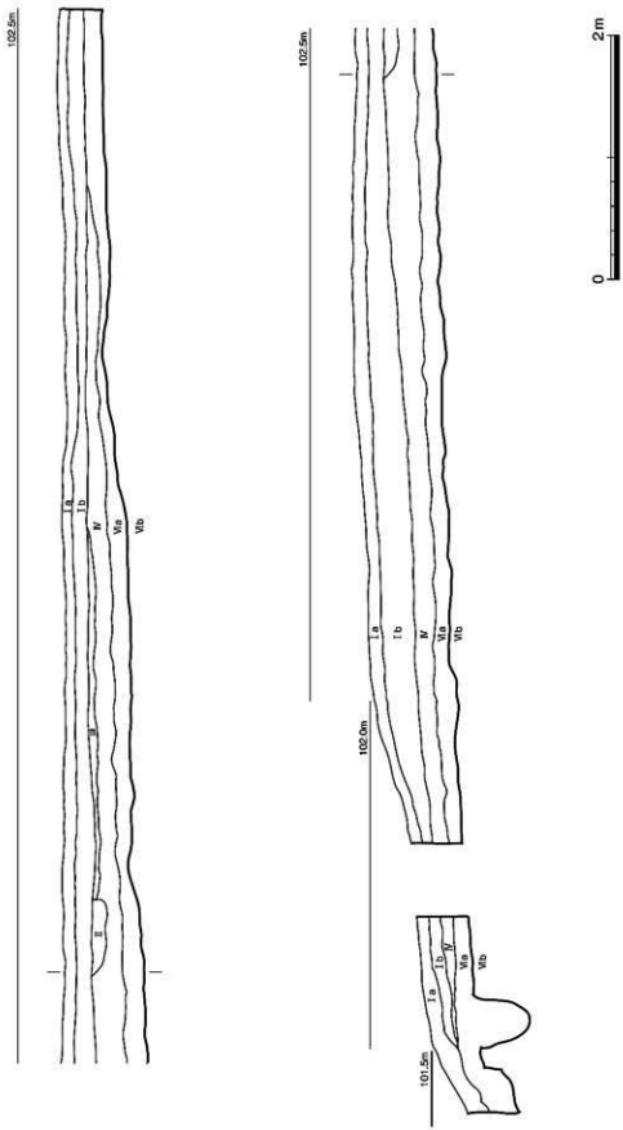
遺構・遺物

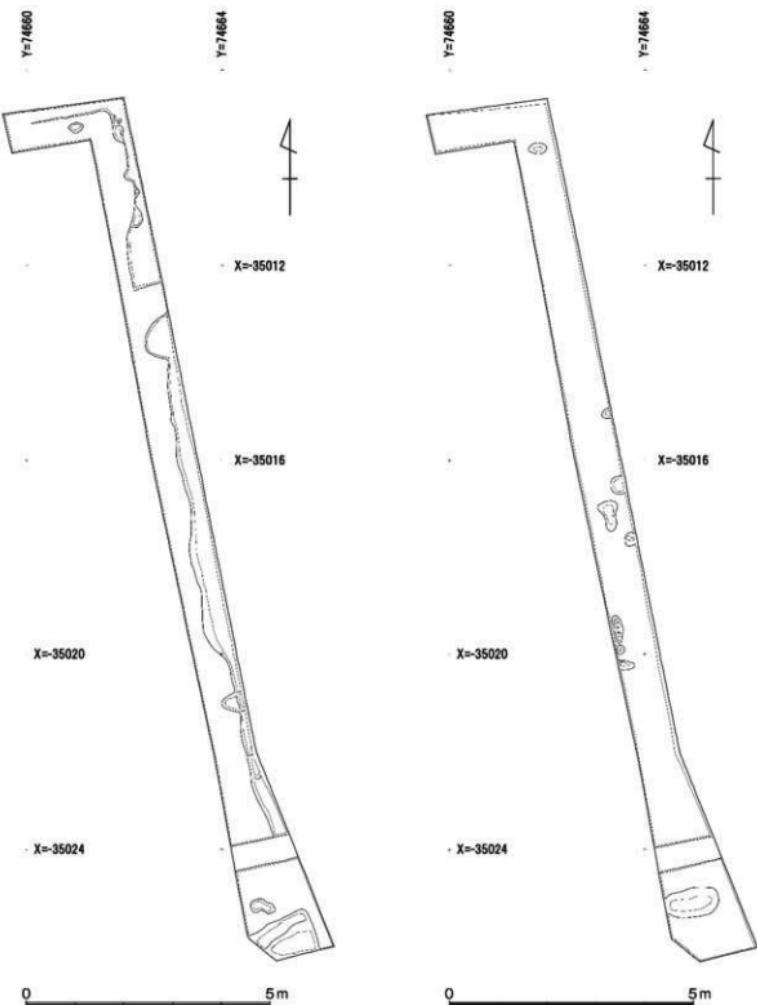
遺構については、VIb層上面からピットと土坑を検出した。確認調査時に中世の遺構を検出しているが、今回の本調査では検出しなかった。遺物は、IV層中から縄文時代後・晚期の貝殻条痕文土器を確認している。

第18図 野中C道路構造区配図 (S=1/1,500)



第19図 野中C地盤西壁土質実測図 (S=1/40)





第20図 野中C遺跡IV層
上面平面実測図 ($S=1/100$)

第21図 野中C遺跡VIb層
上面平面実測図 ($S=1/100$)

第VI章 野中A遺跡の本調査

調査の概要

令和3年10月5日から令和3年10月8日の期間において、10m²の本調査を実施した。調査対象地は、灌漑施設の送水管を設置する部分であり、掘削は人力によって行った。調査の各段階で写真撮影を適宜行い、完掘後に平面図と土層断面図を作成した。

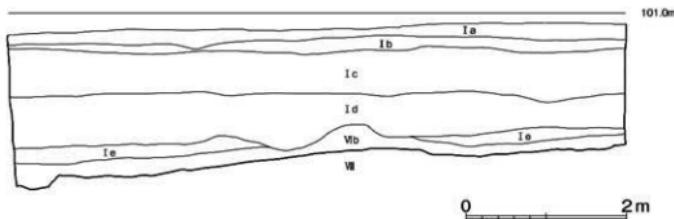
基本土層

今回の調査によって得られた土層は以下の通りである。I c層～I e層を除き、見岳地区の基本層序と合致する。

- I a層 暗褐色土。耕耘を受けた耕作土。
- I b層 暗褐色土。耕耘を受けておらずしまりが強い耕作土。
- I c層 黄褐色土。令和2年度のは場整備事業による造成土。
- I d層 灰白色砂礫層。令和2年度のは場整備事業によるセレクトの層。
- I e層 令和2年度のは場整備事業実施前の耕作土。
- VI b層 黒褐色土。過年度の野中A遺跡調査における縄文時代早期の遺物包含層。
- VII 層 灰黄褐色土。

遺構・遺物

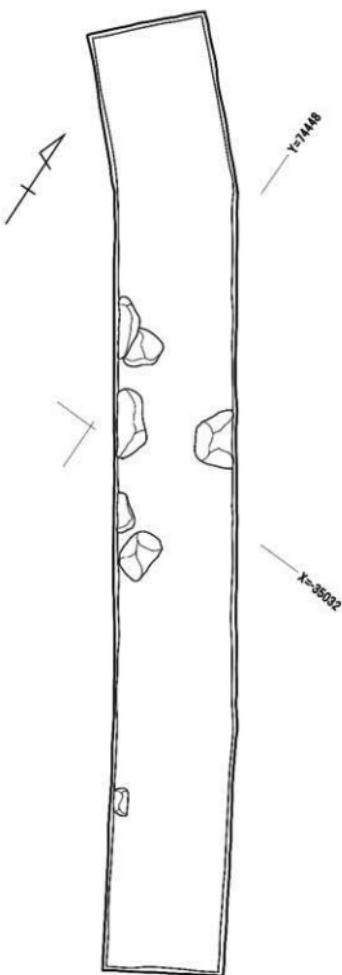
遺構については、確認できなかった。遺物としては、VI b層中から黒曜石剥片が出土した。過年度に実施した野中A遺跡の調査において、VI b層は縄文時代早期の遺物包含層であることが判明している。今回出土した遺物も当時期にあたる可能性が高いと考えられる。



第21図 野中A遺跡東壁土層実測図 (S=1/60)

第23図 野中八幡跡調査区配置図 (S=1/1,500)





0 1 2 m

第24図 野中A遺跡VI層上面平面実測図 ($S=1/40$)

図 版



東新堂原遺跡
A区発掘状況（東から）



東新堂原遺跡
A区北壁



東新堂原遺跡
A区作業状況

図版 2



東新堂原遺跡
B区完掘状況（東から）



東新堂原遺跡
B区南壁



東新堂原遺跡
B区作業状況



東新堂原遺跡
C区発掘状況（北から）



東新堂原遺跡
C区北壁

図版 4



野中B遺跡
東側調査区
東壁



野中B遺跡
東側調査区北側
IV層上面遺構検出状況
(北から)



野中B遺跡
東側調査区南側
IV層上面遺構検出状況
(北から)



野中B遺跡
東側調査区
遺物検出状況



野中B遺跡
東側調査区
遺物出土状況

図版 6



野中B遺跡
西側調査区西壁



野中B遺跡
西側調査区
IV層上面遺構検出状況
(北から)



野中B遺跡
西側調査区
遺物出土状況



野中B遺跡出土遺物

図版 8



野中C遺跡
西壁



野中C遺跡
Va層上面構造検出状況
(北から)



野中C遺跡
作業状況



野中A遺跡
調査区設定（北から）



野中A遺跡
セレクト層検出状況
(北から)



野中A遺跡
完掘状況（北から）

図版10



野中A遺跡
西壁①



野中A遺跡
西壁②



野中A遺跡
作業状況

報告書抄録

ふりがな	ひがししんどうばるいせき・のなかBいせき・のなかCいせき・のなかAいせき						
書名	東新堂原遺跡・野中B遺跡・野中C遺跡・野中A遺跡						
副書名	水利施設等保全高度化事業特別型（畑地帯担い手育成型・見岳地区）に伴う発掘調査						
卷次							
シリーズ名	南島原市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第32集						
編著者名	本多 和典						
編集機関	南島原市教育委員会						
所在地	〒859-2412 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地 TEL 0957-73-6705						
発行年月日	西暦2023年3月31日						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
ひがししんどうばるいせき 東新堂原遺跡	あらからまち 南島原市 西有家町	市町村	遺跡番号	°'\"	°'\"	調査期間	調査原因
のなか 野中B遺跡		42214	149	32°41'12"	130°17'50"	2020030119 ～20201023 20201218 ～20210129	21m ²
のなか 野中C遺跡			158	32°40'58"	130°17'39"	20210601 ～ 20210831	185m ²
のなか 野中A遺跡			159	32°41'03"	130°17'46"	20210706 ～ 20210714	16m ²
			50	32°40'53"	130°17'39"	20211005 ～ 20211008	10m ²
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
東新堂原遺跡	遺物包含地	縄文時代		土器片			
野中B遺跡	遺物包含地	縄文、弥生、古墳、中世	ピット	鉢、甕、壺、土師皿			
野中C遺跡	遺物包含地	縄文時代	ピット	貝殻条痕文土器			
野中A遺跡	遺物包含地	縄文時代		黒曜石剥片			

南島原市文化財調査報告書 第32集

東新堂原遺跡

野中B遺跡

野中C遺跡

野中A遺跡

2023.3.31

発行 長崎県南島原市教育委員会

〒859-2112 長崎県南島原市南有馬町乙1023番地

印刷 カキモト印刷